

平成 27 年度 栗東歴史民俗博物館協議会の概要

- 開催日時：平成 28 年 2 月 5 日（金曜日）14:00～15:10
- 開催場所：栗東歴史民俗博物館 会議室
- 出席者
【協議会委員】石丸 正運（会長）、西尾 悦子（副会長）、大橋 信弥、澁江 善光、
月野 みつ、中野 光一、山本 喜三雄 の各委員
- 【事務局】教育部長、スポーツ・文化振興課長、歴史民俗博物館長、
歴史民俗博物館学芸員・主幹、歴史民俗博物館学芸員・主査
- 欠席者
【協議会委員】江川 久雄、山内 君代、吉見 静子 の各委員
- 傍聴者：0名

概要

1. あいさつ
会長あいさつ
2. 協議事項
 - ①平成 27 年度博物館事業について
 - ②平成 28 年度博物館事業について
 - ③その他
3. 閉会
教育部長あいさつ

議事

①平成 27 年度博物館事業について

- 平成 27 年度の博物館事業について事務局より資料に沿って報告。
- （委員） 「まちづくり出前トーク」は、どのような内容で行っているのか。
- （事務局） 自治会単位での実施が多いということもあり、考古資料を持参して実物に触れていただいているほか、親しみやすい絵図を切り口にして、地域の歴史に興味持っていただいている。
反響があり、連続して申し込まれる団体がある。
- （委員） 博物館教室「昔の暮らし」は、市外の小学校も多く受講されている。遠方から栗東の博物館に来て受講されるというのは、他の地域ではこういった取り組みをしている博物館がないということか。
- （事務局） 県内では、東近江市の博物館が同じような体験プログラムを実施されている。栗東歴史民俗博物館の特徴として、移築民家旧中島家住宅を活用した

体験プログラムを実施しているということがあり、好評をいただいている。近隣では、草津市や守山市にはこういった体験プログラムを実施する施設がなく、栗東歴史民俗博物館の利用増につながっている。

- (委員) 人気がある、ということか。
- (事務局) そのように理解している。博物館教室「昔の暮らし」を受講した児童が、後日改めて家族と来館するなど、栗東歴史民俗博物館の知名度アップにもつながっている。小学3年生向けなので、歴史的な内容を理解してもらうのは難しいが、「昔の暮らし」を体験する機会として有意義と考えている。
- (委員) 滋賀県内の他の博物館と役割分担をしているのか。栗東の子どもたちが、他の地域の博物館で学ぶこともあるのか。
- (事務局) 社会見学として工場などには行っているようだが、他の博物館に行っているという事例は聞かない。役割分担ということ言えば、湖南地域には、栗東歴史民俗博物館のほか、守山市の埋蔵文化財センター、野洲市の銅鐸博物館、草津市の街道交流館と、特徴的な施設がある。安土城考古博物館も含めて、連携を進めており、広報面での効果があると感じている。これまでも、滋賀県博物館協議会を通じた連携した取り組みはあったが、個別の館同士の連携を深めていきたい。
- (委員) 事務局より、市内からの来館者と市外からの来館者が概ね2:1という説明があった。基本方針や重点目標では、「市民」「地域」が盛り込まれているが、栗東市外にも広く発信するというメッセージを込めてもよいのではないか。
- (事務局) 歴史を考えるときには、旧郡単位の範囲を視野に入れる必要がある。栗東歴史民俗博物館ではあるが、栗東だけではなく栗太郡というフィールドで考え、活動していきたい。
- (委員) 栗東歴史民俗博物市民学芸員の会では、企画展「竹村定治コレクション展 鉄道模型の世界」以外にも、現在開催中の特集展示「文化財と拓本」にも協力した。歴史民俗博物館の収蔵資料にも地域の文化財にも、拓本を採るべき資料が多く苦勞をしたが、多くのことを学ぶ機会になった。展示の見せ方についても、歴史民俗博物館と協議しながら進めている。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館が実施している入館料の無料化は、博物館法に則ったものであり、博物館の本来あるべき姿を現していると考え。地域の博物館では、年間の入館者数の目安として「人口の1割が入れればよい」と言われているが、栗東歴史民俗博物館では、博物館教室「昔の暮らし」で栗東市にとどまらず広く滋賀県内の小学校を受け入れるなどの取り組みもあって、年間の入館者数は人口の2割に達している。順調に活動されていると思うし、全国的に評価されても良い博物館である。

②平成 28 年度博物館事業について

平成 28 年度の博物館事業について事務局より資料に沿って報告。

- (事務局) 平成 28 年度の重点目標は「市民とともに楽しみ、広く活動する博物館を目指して」であるが、先ほど委員からご指摘をいただいた、栗東市外にも広く発信するというメッセージを込めるという意味合いも込めて、“広く”という語句を入れている。他館との連携として、観峰館（東近江市）と企画展「(仮称) 琵琶湖誕生—日本・世界が見聞した琵琶湖—」を、草津宿街道交流館（草津市）と特集展示「(仮称) あおばな」をそれぞれ共催する予定である。
- (委員) あおばなは草津の特産品という印象を持っていた。栗東歴史民俗博物館で取り上げるのは有意義なことと感じる。あおばなを用いた染色などの体験講座に取り組む予定はあるのか。
- (事務局) 体験講座は開催を検討している。今は草津のものという印象が強いあおばなであるが、栗太郡という範囲で取り組んでいきたい。
- (委員) 昭和 30 年代頃までは、栗東の広い範囲でもあおばなを栽培していた。なぜ、草津の特産品のようにってしまったのかという思いもあるので、体験講座等も含めてぜひ取り組んで欲しい。
- (事務局) 体験講座も含めて、啓発していきたい。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館が開館当初した頃、古文書や民具の収集に重点的に取り組んだ。資料の散逸を回避する必要性などを説明し、多くの所蔵者の協力を得られた。栗東歴史民俗博物館の開館から四半世紀を経て、地域の生活の変化などともなつて、地域に残る古文書や民具の散逸に関する懸念が増していることを踏まえ、博物館として資料の調査・収集に重点的に取り組んではどうか。博物館で資料の調査・収集を行っていることの広報も必要なように感じる。
- (事務局) 現在も、情報提供があれば調査にうかがっている。民具については、すでに多くの収蔵品があることも踏まえて、現時点で収蔵していないものを中心に必要なに応じて収集している。古文書についても、調査した上で収集の必要性を判断している。博物館が資料の調査・収集を行っていることについては周知していきたい。
- (委員) 資料の散逸の防止、保管は博物館の役割でもあるので、よろしく願いしたい。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館での物品の販売は可能か。
- (事務局) 想定はしていない。
- (委員) 物品の販売を行えば、予算面での効果がある。来年度に企画している特

集展示「(仮称) あおばな」のような展覧会ならば、関連する物品を販売すれば宣伝効果もある。

- (事務局) 手法について研究し、検討する。
- (委員) 現在も絵葉書を販売しているのであれば、他の物品を扱っても良いのではないか。例えば、狛坂磨崖仏をもとにした商品などがあれば、良い記念品になるのではないか。
- (委員) ミュージアムショップは博物館を訪れる楽しみの 1 つでもある。検討して欲しい。
- (委員) 栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会では、これまでに 10 回ほど、公開講座を博物館と共催している。これからも継続していきたい。
- (委員) 地域間での連携については、野洲市と守山市でも模索されている。栗東市も加えた野洲川下流域は歴史的・文化的に様々な要素のある地域なので、連携のしがいがある。
- (事務局) 滋賀県立安土城考古博物館では現在、「大湖北展」を開催されているが、来年度には栗太郡・野洲郡を取り上げる予定と伺っており、栗東歴史民俗博物館でも協力・連携していきたい。また、大津市歴史博物館では、来年度に「発掘された日本列島展」の開催が予定されている。同時に、滋賀県内の発掘調査の成果も公開されると思うので、協力・連携していきたい。これまでにも滋賀県博物館協議会や滋賀県立琵琶湖博物館を中心に、協力・連携した取り組みは行われてきたが、改めてその輪を広げていきたい。
- (委員) 近年の市町村合併では、旧郡の範囲を越えた合併も行われ、地域のまとまりや地域性が失われつつある。博物館同士が連携することは、地域の歴史を見直す上でも意義がある。
- (委員) 色々な切り口で取り組んでいけば良い。
- (事務局) そのようにしていきたい。

③その他

事務局より、石丸 正運、大橋 信弥、山内 君代、山本 喜三雄の各委員が「平成 27 年度 栗東市市政功労者表彰」(社会功労) を受賞されたことのご紹介。